

極楽寺だより



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）
山口県長門市三隅下野波瀬 3633
☎759-3803 ☎0837-43-0625

2018(平成30)年12月号

御正忌報恩講のご案内

阿弥陀さまの大慈悲をあきら

かにして、私たちに浄土往生の

道を示して下さい。たご開山親鸞聖人の九十年のご苦労とご

恩徳を讃え、仏恩報謝の心をよせあつて、大切につとめさ

せていただく報恩講。浄土真宗では、もつとも大事なご法

要です。お誘いあわせお参り下さい。



一月十四日(月) 昼一時半 夜七時

十五日(火) 昼一時半 夜七時

夜九時

大速夜の時間を、
早めました。

十六日(水) 昼一時半

※ 十六日は親鸞聖人のご命日です。

特に大切に勤めます。

報恩講お齋のご案内

次の通り、お齋のご案内を申し上げます。

【十四日】

「昼」

豊原・平野・浅田・沢江

上ヶ・殿村・上東方

下東方・小島・町外

「夜」

野波瀬東側

(一〜四班)

室生

【十五日】

「昼」

向山・久原・土手

中村・大竹・市・湯免

下中小野・辻並

「夜」

野波瀬西側

(五〜十三班)

※ 十六日は、お齋はありません。

※ 都合の悪い方は、指定以外の日
にお参りされても構いません。

お齋受付のお願い

野波瀬の世話人の方は、毎年のように担当
区域の、お齋受付のお世話をお願いします。

ごしょうきほうおんこう 御正忌報恩講とは



親鸞聖人しんらんしょうにんが亡くなられた日をご縁えんとして開かれる法要ほうようです。親鸞聖人は七五〇年も前に亡くなられましたが、聖人がその一生をかけて明らかにされたお念仏の教えは、それを生きる力、そして「よりどころ」とした、たくさんの念仏者ねんぶつしゃを生み育ててきました。私たちの先輩方は、この御正忌ごしょうきという法要を一番大切にされ、人生における本当に尊とうといことを聴聞されたのです。門徒みんながこの御正忌にお参りすることが、慣ならわしでもありました。毎年御命日ごめいにちには、記念写真を撮っています。ぜひ、お参り下さい。



2018年の16日御命日にお参りされた皆さん

おおたいや

大逮夜の時間が変わります。夜十一時 → 夜九時

毎年一月十五日は、親鸞聖人おおたいやのご命日の大逮夜。本願寺では、「通夜布教つやふきょう」（講師が交替して、夜通しおこなわれる法話会つと）が勤まります。金子みすゞさんが『報恩講』という詩で「お番ばんの晩は夜なかでも ころころ足駄あしだの音がする」と詠まれた、「お番の夜」というのが、この大逮夜です。極楽寺でも、1994（平成6）年までは、翌朝五時のお朝事まで、徹夜でお番つやほうぎをする通夜法座を勤めていました。戦時中も、この伝統でんとうを絶やしてはいけないと、二人で本堂で夜を明かされたおばあちゃんたちもおられたとか。一昨年までは、夜十一時に勤めていましたが、お参りの方々の高齢化こうれいかを鑑かんがみ、夜九時に変更へんこういたします。夜座の後、共にお茶をいただいて、大逮夜のお勤めをいたします。ぜひ、お参りください。この伝統を、伝えていきたいと思ひます。



2018年の15日大逮夜にお参りされた皆さん



今年一年を振り返って

毎年のように思うのですが、あつという間に過ぎた一年でした。しかし、こうして年が変わるという区切りがなければ、振り返ることも、見つめ直すことも、なかなかできません。そう考えると、とても大切な時期ですね。ということ、印象に残った言葉を手掛かりに、今年一年を振り返ってみようと思います。

「悪質タックル」「奈良判定」「首相案件」

日本大学アメリカンフットボール部の選手が、悪質なタックルで相手選手を負傷させたことが、話題になりました。アメフトでは、プレー中ほどの選手にもタックルをすることが許されています。ところが今回は、プレーが中断して気を抜いた無防備なところに、背後からタックルをするという悪質で危険なものでした。しかも、監督やコーチの「相手選手を潰しに行け」「そうすれば、試合に出してやる」という指示によるものだったという選手の発言で、問題はさらに大きくなったのです。

その後の警察捜査では、監督とコーチの指示があったことは



証明されず、立件は見送られました。テレビや新聞を通して、「タックルは指導者の指示に違いない」という決めつけ、監督・コーチへのバッシングの異常さは、いかがなものかと思わざるを得ません。ただ、指示があったことが証明されなくても、監督・コーチの責任は大きいと思います。

試合に出たいと思う選手にとって、出場者を決める権限を持つ監督は「権力者」なのです。監督の一言は、大きな影響力となります。「相手を潰せ」という言葉は、部内では「激しく行け」という意味で使われていたようですが、それを「怪我をさせろ」と受け止めざるを得ないほど、監督の存在感が大きかったのは間違いないことでしょう。もしかすると忖度が起きて、そんな空気が熟成されていたのかも。その影響力を監督自身が自覚しなかったことには、大きな責任があると思います。

お婆ちゃんが歩いている側を、小さ

な子どもが懸命に三輪車をこいで走り抜けても、お婆ちゃん



は何とも思わないでしょう。しかしその側を、猛スピードでダンブカーが走り抜けたらどうでしょうか。お婆ちゃんは驚き、よろけ、怪我をしてしまうかもしれません。だからこそ、ダンブカーの運転手さんは、周囲への配慮を怠らないよう注意する必要があります。

権力を持つということは、ダンブカーのように周りに大きな影響を与えてしまうということなのです。権力を持つ人の言葉は、周囲の忖度を生み、独り歩きしかねない。だからこそ、発言の重さを自覚し、配慮を怠らぬよう注意しなくてはならない。権力を持っている人は、それだけの自覚が必要なのです。

アマチュアボクシング界のドンと言われた、日本ボクシング連盟の山根明前会長も、その配慮を怠った一人なのでしょう。山根前会長の出身地・奈良県の選手に対して、試合で有利な判定がなされるという「奈良判定」が話題となりました。前会長の圧力が審判に働いていたと、ワイドショーではバッシングされましたが、真偽のほどはわかりません。しかし、前会長にはその意識はなくても、あの風貌や口調も相まって、ダンブカーが側を通り抜けるほどの影響があったことは、想像に難くありません。



それは「首相案件」という言葉にも、同じことが言えるのではないのでしょうか。ライバルの力が失われ、一強と言われる力を持つほどに、配慮と注意が必要だと思えます。私自身も、年齢を重ね、社会的立場や家庭内での立場が変わっていく中で、注意しなくてはならないことだと思えます。

「そこに愛はあるのか？」

そう考えると、今年一番心に残ったCMのフレーズが思い出されるのです。それは女優の大地真央さんが、威厳と迫力ある声で言われる「そこに愛はあるのか？」という一言。強烈なインパクトと同時に、鋭く「本質」を問うものとして私の心を打ちました。自分に悪意はなくても周囲にプレッシャーを与えることがあり、周りが忖度すれば圧力は更に大きくなるのです。過剰な忖度が、思いもよらない暴走を生むことさえあります。そんな時、「そこに、愛はあるのか？」と中身や本質を問いかけてくださる方がいることは、とても有り難いことです。時には私も、大地さんに叱ってもらえたらと思ったのです。



私は問い続ける 営みの尊さを、親鸞聖人の生き方から教えられました。聖人の一生は、まさに苦悩と問い直しの人生だったと言えるでしょう。常に「そこに、阿弥陀様の心はあるんか。本当の心はあるんか？」と。だからこそ、親鸞聖人の出遇われた世界は、深く、豊かなのです。

「ポーっと生きてんじゃねえよ！」



今年は、NHKの番組を見る機会を、多く恵まれました。特に『100分de名著』は、面白かった！日頃、なかなか手に取ることができない古今東西の「名著」を、25分×4回、つまり100分で読み解く番組です。ゲストのわかりやすい解説と、伊集院光さんという絶妙な案内役。極楽寺にも来てくださる 釈徹宗先生は、何度も出演しておられます。こちらの頭が揺さぶられ、風通しがよくなり、多くの発見がありました。

また、『B面談義』も私のおススメ。『イケイケ』車いす女子タレント、ゲイをカミングアウトした小学校の先生、その半生がドラマ化された全盲の弁護士などの濃すぎる面々に、司会の千原ジュニアさんがツツコミ、いじりながら、ちまたの



話題についてトークするというバラエティー番組です。ジュニアさんが「コメンテーターの方の目線が違う。僕らは「見える」から見えていないものがある」と言われるように、笑いの中にも温かさがあり、気づきが生まれ、世界が広がるような気がしました。そして、今年のNHKと言えば、何ととっても『チョコちゃんに叱られる』でしょう。「いつてらっしゃーいつてお別れするとき、手を振るのはなぜ？」「かんぱーいつてするとき

グラスをカチン、あれはなぜするの？」。このよきな素朴な疑問を、5才（という設定）のチョコちゃんが問いかける番組です。答えられなかった回答者は、チョコちゃんに「ポーっと生きてんじゃねえよ！」と叱られてしまいます。

この決め台詞は流行語になるほどでしたが、この番組のすごいところは「問い」の立て方で、普段当たり前のように見過ごしていることに、「問い」を持つ。そこに、新たな発見や驚きが生まれる。こんな「問い」を持てるようになると、見慣れた景色も新鮮なものとして見えるのではないのでしょうか。

ちなみに千原ジュニアさんの座右の銘は「?!」なのだとか。



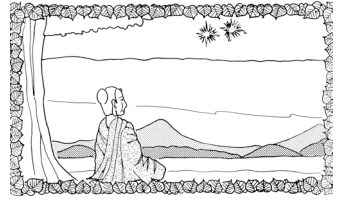
クエスチョンマークとビックリマーク。つまり、「問いと驚きを、いつも持ち続けたい」ということだそうです。ジュニアさんのトークが一味違うのは、いつも「問い」と「驚き」を探し続けている目線の違いにあるのでしょうか。

今年一年を振り返り、どんな「問い」や「驚き」を感じたのかと考えると、まだまだ薄っぺらな生き方しかできていないことに、気づかされます。やはり、「そこに、愛はあるか?」「ポーっと生きてんじゃねえよ!」と叱られなければ、なかなか気づけないことが多いようです。周囲への配慮を怠ることも、あるのかもしれませんが。大地真央さんやチコちゃんが、いつも側にいてくれれば良いのですが。しかし私たちには、阿弥陀様に手を合わせる時間があります。来年こそは、阿弥陀様の光に照らされながら自分を見つめ、問いや驚きを感じられるような、深みのある年になりたいと思います。実を言うと、毎年のようにそう思っているのですが…。

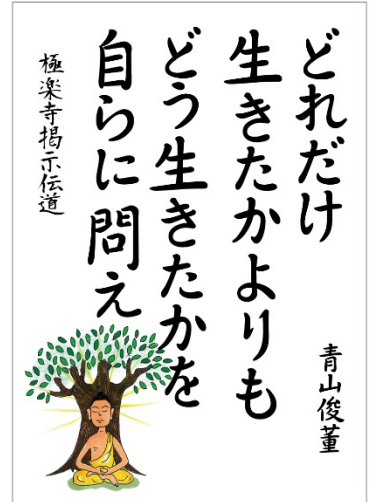


お寺のお世話をして下さい、総代・世話人の皆さんです。よろしくお願いします。

総代長	木村慎治さん(野波瀬)		
副総代長	松野行利さん(野波瀬)	総代	藤村勇次さん(久原)
総代	藤田平二さん(仙崎)	総代	吉見周平さん(市)
会計	磯 昭正さん(沢江)	監査	野村昭一さん(上東方)
野波瀬西側	斉藤達男さん	市・湯免	吉見周平さん
	綿野節男さん	土手・中村・大竹	田中正幸さん
	宮崎忠彦さん	久原	宮本雅志さん
	青海隆司さん	向山	木村重彦さん
	大田宇三郎さん	上東方	西村正起さん
	岩本 勉さん	下東方・小島	河野光芳さん
野波瀬東側	藤永拓之さん	豊原	山中博道さん
	田村成治朗さん		山中博之さん
	石川義文さん		宮本 智さん
	江本富夫さん		坪野実人さん
	岩本国久さん	平野	山中洋介さん
辻並・中小野	松並唯夫さん	浅田・沢江・上ゲ・殿村	大田忠男さん



極楽寺掲示伝道 けいじでんどう



12月の言葉

分にこだわらなくてはいけないのだと。

職業に貴賤はないけれど、生き方に貴賤はある。職業はやめられるけど、生きることには止められない

仕事を極めても、仕事が変わったらそれまで。しかし、自分の生き方は一生もの。だから仕事での能力や実績よりもまず、一人の人間としての振る舞いに「プロ意識」を持つべきだと諭されたのです。

永さんは、こうも言われていたそうです。

僕は職業が永六輔だから／僕にとっての職業というのは、「生き方」といつてもいいのかもしれない
（『大遺言』永拓実）

私たちは、一人の人間としての振る舞いに、生き方に、「プロ意識」を持っているでしょうか。「どう生きているか」を見つめているでしょうか。

お釈迦様の言葉には、

頭髮が白くなったからとて「長老」

なのではない。ただ年をとっただけ

けならば「空しく老いぼれた人」と

言われる。（『ダンマパダ』260）

お笑いタレントの清水ミチコさんが、デビュー前に小さな劇場で「芸」を披露していた時のこと。突然、永六輔さんが観に来られました。

名曲『上を向いて歩こう』『見上げてごらん夜の星を』の作詞をはじめ、放送作家、タレント、随筆家と、多岐にわたり活躍された永さんは、同時に、若い才能を発掘し、育てられた方でもあります。あのタモリさんも、永さんに見い出された一人です。

本番後、永さんは初対面にもかかわらず、清水さんを喫茶店に呼び出します。そこで、舞台上での立ち居振る舞い、お辞儀の仕方を教えられ、こう言われたそうです。

君、芸はプロだけど、生き方がアマチュアだね

永六輔さんは、清水ミチコさんの才能を見抜かれたのでしよう。しかし、芸人としてどんなに優秀でも、もっとと基本の部



誠あり、徳あり、慈しみがあって、傷わず、つつしみあり、みずからととのえ、汚れを除き、気をつけている人こそ「長老」と呼ばれる。（『ダンマパダ』261）

とあります。厳しい言葉です。胸に突き刺さってくるようです。

東京に、有名人や著名人を多く看取られる病院があります。そこに入院された元政治家の方は、看護師さんに「〇〇さん」と名前と呼ばれると、「なんて失礼なヤツだ！」と怒られていたというのです。「では、何と呼ばば良いのですか」とたずねると、「先生と呼べ」と。どこまでいっても、政治家と言う肩書きにこだわられた方だったようです。

肩書は、たとえるならば服のようなもの。どんなに着飾っても、高価なアクセサリをつけても、人間最後は裸で死んでいかなくはなりません。古い、病み、死んでいく中で、一つ一つ肩



書きを剥ぎ取られていくのです。どれだけ生きようが、何をしようが、肩書をすべて剥ぎ取られた時に、どんな自分がそこにいるのか。死を

前にしたとき、人生は厳しく問いかけてきます。

念仏詩人とよばれた榎本栄一さんは、

日の光に 照らされたら 私が着ているのは

ボロ着物でございました（『ボロ着物』）

という詩を書いておられます。実際にボロの着物を着ておられたわけではありません。まさに、阿弥陀様の光に照らされた時に、自分が着飾るように握りしめていた肩書きの虚しさに、気づかれたのです。

榎本さんは、お念仏と出遇い、自らを深く見つめられ、味わい深い詩を数多く書かれた方でした。中でも私が一番好きなのが、次の詩です。

こころはいつも下座にあれ ここはひろびろ

ここでなら なにが流れてきても

そっと お受けできそう（『下座』）

榎本さんは、この詩についてこう語られています。

地べたに坐っておる気持でございませぬ。高いところで、自分の力以上のもんを持たされたら腰抜かしますし、地べたでどつかと坐っておりますたら、自分の体重以上のもんがきても、「はい」というてお受けできると。ここよか下へ落ちる

ところがないところが、自分の安息あんそくの場所で一番いいところやないかいなあと思うのでございます。落ちるところないところ、少し高いところにおったら、いくらかでも一段でも二段でも下へ落ちますが、これよか落ちようのないところ、そこが一番安坐あんざ安住あんじゅうのところ。(NHK)「こころの時代」出演時 1992年)

榎本さんは、着飾るような肩書を「ボロ着物」と喝破かつぱし、地べたに坐るように生きられました。それは、阿弥陀様の大地あんにぎに安住あんじゅうされた生き方でした。

突っかい棒が ひとつ またひとつ

ひとりでははずれ

いまはわがいのちひろびろ

さてこれから (『いのちひろびろ』)

着飾まもることも、突っかい棒すわもいらぬ世界がある。丸裸まるはだかの私を

受け止めてくださる阿弥陀様の大地

にどっかと坐すわる。そして、周りのす

べてを尊とうとく仰あおぐ。そこは安らかで、

ひろびろとしている。

そんな生き方に、私はとても魅ひか

れるのです。思わず手を合わせ

るのです。「そう生きたい」と、思うのです。

しかし榎本さんは、

こんな詩も書いておられます。

うぬぼれは 木の上から

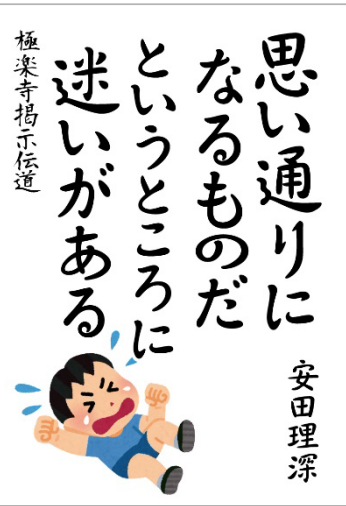
ポタンと落ちた

落ちたうぬぼれは いつのまにか

また 木の上へのぼっている (『木の上』)

どこまで行っても、着飾ろうとする私を、どうもお見通しのようです。お念仏を通して、常に常に、自分の生き方を問わねばなりません。 ■





思い通りに
なるものだ
というところに
迷いがある

安田理深

1月の言葉

私が福岡の本願寺教務所を辞め、極楽寺に帰ってきて、早いもので十五年目となりました。帰ってきたときには小学校入学前だった長男も、先日成人を迎えました。

さて、福岡から引越した時のことです。もちろん業者さんをお願いしましたが、さすがにプロですね。手際良く、重い荷物も軽々と運んでいきます。休憩時間に「よくもまあ、あの重い荷物を運べますね」と声をかけると、「いくら力があってもダメなんですよ。重心をどこに置くかが大切なんです」と言われました。とても面白い話を聞いたと、十五年後の今でも印象に残っています。

何度倒しても、ころんでも、起き上がる「おきあがりこぼし」という玩具がありますが、それは重りを本体中心下部に入れるという仕組みになっています。頭部に重心があると、倒れれば

なしで起き上がることができません。これは、私たちの人生にも通じるのではないのでしょうか。生きる重心をどこに置くのかによって、生き方も、見える景色も全く変わってくることでしょう。頭だけで考えてしまうと、安易に「俺の人生は、もう終わりだ…」と、起き上がれなくなったりもします。

私が学生の頃、『VOW』（宝島社発行）という雑誌が、流行りました。〃街で見つけたヘンなもの（看板・道路標識の誤字や変わった名前の会社・店等）〃の写真を投稿し、皆で笑おうという企画の雑誌です。その本にあるお寺の掲示板の写真が掲載されました。そこには法語として、こんな言葉が紹介されていたのです。

「ああ、思い通りにならなくて、
本当によかった」

普通感覚からしたら、おかしな言葉です。一般的には、「思いどおりになりますように」と



※ここには願い事をするだけ願掛けのようです。愛知県／ぢもあつはつは、今日までこの教えを知らなかったオレはなんだっただん！！ 惚れました。大谷派

お願いするのが宗教だと思われていますから。だからこそ、街で見つけたヘンなもの”として、雑誌に取り上げられたのでしよう。

しかし、これは間違いではないのです。この言葉は、癌を患い四十七歳で往生された、鈴木章子さんという真宗大谷派（東本願寺）の坊守さんの言葉です。鈴木章子さんは告知されてからの人生を、まさに仏法に包まれて生きられた方でした。

人間は死ぬのだという誰でも知っている事実を、頭だけで理解していた。そんなうぬぼれを癌が砕いてくれたと、鈴木さんは語られています。そのことで、当たり前だと思っていたことの不思議さを、多くのものを恵まれていたことを知らされた。今この出遇いの尊さを、教えられた。気づかずに過ぎてしまっていたことに、気づかされた。鈴木さんの詩には、思い通りにならないかっただけで、初めて気づかされた景色が描かれています。

肺がんになって ここ あそこから

如来様の説法が

少しづつ きこえてきます

今現在説法 真只中でございます



『癌告知のあとで』 鈴木章子) ↓

「今現在説法」とは、『阿弥陀経』の一節で「今、現にましまして説法したまう」という意味です。これまで、知識として受け取っていた仏法が、今まさに、私のために説かれた教えだったとだけた。仏様が、今ここにましまして語りかけられている。そんな言葉として聞こえてきたと。

もちろん、簡単に受け入れられたものではありません。その裏には、深い悲しみと苦悩がある。それを通して、なお語られる言葉だからこそ、重く尊いものだと思います。

あーあ 思いどおりにならなくて ほんとうに よかった

こんな汚い根性で 思い通りになっいたら

何人 人を殺したやら…

何人 敵をつくったやら…／『癌告知のあとで』 鈴木章子

「思いどおりになりますように」というところに重心がある時に、思い通りにならない現実を突きつけられると、「神も仏もあるものか」と誰かに責任を押しつけてしまいかねません。「俺の人生もう終わりだ」と投げ出してしまうかもしれません。

しかし、「思いどおりにならないのが人生だ」と仏法は教え

てくださるのです。生きることも、老いることも、病むことも、死ぬことも、思いどおりにはならない（生老病死）。愛する人と別れなくてはならない（愛別離苦）し、嫌なヤツにも会わなくてはなりません（怨憎会苦）。欲しいものは手に入らない（求不得苦）。心や身体に執着することで苦しみが起こります（五蘊盛苦）。思いどおりになるものだといいところに、苦しみや迷いがあるのです。思いどおりにならない人生を、どうすれば尊いものにしていくことができるか。それが仏法のテーマだと言えるでしょう。

鈴木章子さんは、仏法を通して、思いどおりにならない人生を受け入れられました。そこに重心が定まった時に「このご縁によって、本当に大切なことが知らされた」と、まさしく「おきあがりこぼし」のように、何度も起き上がる人生を示してくださいました。

重心が変わる。ものの見方が変わる。これを仏教では、回心といます。そこから、癌という重い事実を、受け止めていく人生が開かれていったのです。それは、特別な凄い力が備わるわけではありません。鈴木さんも、「私は強い人間ではない」と言われています。ただ、重心が変わるだけ。ただ、気づくだけなのです。

三隅親鸞聖人鑽仰会 聖跡巡拝団

4月9～10日

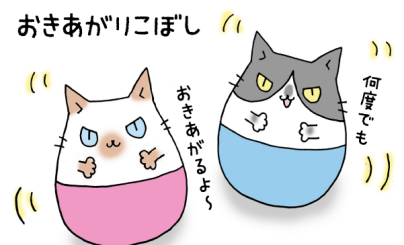
京都本願寺参拝・大阪旅行

よしもと新喜劇も!!



今年の聖跡巡拝団の日程が決まりました。今年は、一泊二日でおこないます。実は、大阪は浄土真宗と縁の深い土地。本願寺第八代蓮如上人の建てられた大坂御坊が、後に石山本願寺となりました。大阪の繁栄は、その寺内町からはじまったと言えます。ちなみに、石山本願寺の跡地に豊臣秀吉が建てたのが大阪城です。なんばグランド花月で、吉本新喜劇も見ると予定です。詳細は、新聞折り込みでご案内します。（問合せ・申し込みは、お寺へ）

思い通りにならない人生を、慶びと尊さの中で生き抜かれた方がいる。そんな方が、私の前を歩んでくださっているからこそ、私たちも思いどおりにならない人生を、私ものとしていただくことができるでしょう。有り難いことです。 ■



二〇一九年 極楽寺のご法座

- ◆ 一月一日 朝十時（毎年） 元旦会
- ◆ 一月十四日～十六日（毎年） 御正忌報恩講
- ◆ 三月四日 春の彼岸会法要
講師 大阪 如来寺 釈 徹宗 師
- ◆ 四月二十四日～二十五日 春の永代経法要
講師 福岡 信覚寺住職 渡邊如心 師
- ◆ 五月二十一日（毎年） 清光仏教婦人会 降誕会
- ◆ 六月十三日～十四日 夏法座
講師 山口市 蓮光寺住職 岡本達美 師
- ◆ 八月十四日～十五日（毎年） 盆法会
- ◆ 九月二十三日（毎年・秋分の日）納骨堂追悼法要
- ◆ 十一月十三～十四日 秋の永代経法要
講師 美祢市 明厳寺住職 中島昭念 師
- ◆ 十二月十八日（毎年） 清光仏教婦人会 報恩講
- ◆ 十二月三十一日（毎年） 除夜の鐘つき 初礼拝



ご法座には、
もんとしきしょう
門徒式章をつけてお参りしましょう

門徒の正装は、門徒式章をつけた服装とされています。喜びも、悲しみも、仏様と一緒に。お参りの際は、式章をおつけ下さい。

住職の



□ 我が広島カープは、残念ながら今年も日本一を逃しました。しかし、低迷期を共にした私には、「お疲れ様でした」という労いの思いしかありません。□ さて先日、伝説のロックバンド “クイーン” のボーカル、フレディ・マーキュリーを描いた映画『ボヘミアン・ラブソニー』を観に行きました。迫力のライブシーンに、私も坊守も大興奮！前評判を裏切らない、凄い映画です。□ 漫画家の山田玲司さんが、この映画を語る中で「フレディ・マーキュリーは、出っ歯やインド系だということがコンプレックスだった。イケメンでもない。そのコンプレックスを全身で受け止め、突き抜けたフレディが本当にカッコ良いんだ！ルックスの良い奴がカッコつけても、そんなにカッコ良いとは思わない。実は、本当にカッコ良いのは、ルックスの悪いヤツがカッコ良く見える瞬間なんだ！」と力説していました。ホントその通りだと思います。□ そんなカッコ良さを、念願だった竹原ピストルのライブで目の当たりにしました。暑苦しく武骨なルックスの彼が、まさに眩しく輝いていたのです。愚直に自分と向き合いながら紡ぎ出す言葉の重さ。何より、目線の低さと圧倒的な優しさ。それらが込められた迫力ある歌声にシビれました。□ それに比べて私はというと、やり切った感も、突き抜けた感もない中途半端な一年でした。来年こそは！と、去年も思っていたような気がします…。■



除夜の鐘つきのご案内

毎年、極楽寺では、おでんを用意して、大晦日に除夜の鐘つきを致します。
す。熱々のおでんをほおばりながら、新しい年が明けるのを共に味わい
ましょう。懐かしい人と再会できるかもしれませんよ。
撞き始め十一時五十分より。終了後、初礼拝のお勤めをします。



元旦会のご案内

一月一日
朝十時より

時間は約三十分。家族全員でお参りされる家もあります。ぜひ、お参り
下さい。わが家のお仏壇も打敷をかけて飾り、
新年を迎えましょう。

※ 参拝者には、記念品を用意しております。



お礼とご報告



パルトップ収集
ありがとうございます

山口別院で換金され、県内福祉施設へ寄付されます。
今年は、7.5kg (空き缶約15,000個分)

たすけあい募金

本堂に設置した募金箱へのご懇志です。

合計25,085円

ありがとうございました。本願寺を通して、被災者の方々への義援金として寄付いたしました。

2019 (平成 31) 年

年回忌表

昭和 94 年に当たります。

一周忌 2018 (平成 30) 年往生
三回忌 2017 (平成 29) 年往生
七回忌 2013 (平成 25) 年往生
十三回忌 2007 (平成 19) 年往生

十七回忌 2003 (平成 15) 年往生
二十五回忌 1995 (平成 7) 年往生
三十三回忌 1987 (昭和 62) 年往生
五十回忌 1970 (昭和 45) 年往生
百回忌 1920 (大正 9) 年往生

※ お配りした、カレンダーの台紙にも、書いてあります。